

神の国にはいるには、努力して狭い門から入る 「誘惑の罠どうする→翼の中に養われる」

ルカ13:22-30

■ 神の国に入る者

努力して狭い門から入る→神の計画に生きる→誘惑の罠どうする→翼の中に養われる
ルカ 13:31-35 後編

■ 考えずに正解を求める時代

自分の熟慮性を確かめる問題が出されました。
『バットとボールは合わせて 1100 円。バットはボールより 1000 円高い。では、ボールはいくらでしょう？』
2つの値段の違いが 1000 円なら 1100 円のうち 1000 円が差額。残りの 100 円は差額が発生していないので均等に分けて 50 円。つまり、ボールが 50 円、バットが 1050 円。
正解は 50 円でしたが、ほとんどの方が 100 円と即座に思いましたね。

目に見える情報だけで判断し、納得できないと事実であっても受け入れない、自分のそんな部分を認識できた時間でしたね。日常においても、いかに思い込みや決めつけが多く、ずれた基準で判断しているか注意しなければならないと思われました。

■ 自然は摂理に従っている

人間の暮らしに近づき、問題を起こしている熊の問題、イエローストーン国立公園でオオカミがいなくなり、鹿が増えすぎたために、樹皮を食べる鹿が原因で森が枯れてきている生態系の問題を知りました。その事態をおこしている対象が問題のように見えますが、問題にはその背景があります。この事態を引き起こしたのはオオカミを人間の都合により排除した結果です。崩れた生態系を本来あるべき姿に戻せば、問題は解決に向かっていきます。

■ 継承する

チーターの母親の子育てを映像で見ました。
なかなか獲物を狩ることができない子ども達。チーターは生後 18 か月で親から離れなければなりません。子ども達に狩りのコツを教え、獲物をしとめさせるため、母親は離れたところから子ども達の狩りを見守ります。子ども達がインパラを捕まえますが、反撃されて負けそうになった時、母親は駆けつけて獲物をしとめました。
自然界では親が子どもに生き様を見せ、生き方を継承していました。

■ ところが拒否している私たち

「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者、わたしは、めんどりがひなを翼の下にかばうように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。」(ルカ 13:34)

私達を大きな愛で包み、その翼の下で守り、育てようとしてくださっている神を拒否したエルサレムの民への言葉です。「見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。わたしはあなたがたに言います。『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とあなたがたの言うときが来るまでは、決してわたしを見ることができません。」(ルカ 13:35)

拒否の結果に対して書かれている言葉です。
私達は、任されていることや、置かれている関係の中で、荒れ果ててしまっていることがないでしょうか。うまくいかないこと、人との争いや、問題は、私たちの心が神様から離れてしまった結果なのです。自己中心な思いが心を占め、神の王座に自分が着いてはいないでしょうか。

戦争は、自己中心な自分の価値観を押し通そうとする心が起こしてしまった行動の結果です。

子ども達が意に沿わないことから逃げてしまうことは、子ども達にとって都合のよい環境を親が用意することが当たり前になった結果、子ども達は親に従わなくなりました。
自分にとって好まないこと、自分の計画通りでないことが起こる時、私達はどうすべきでしょうか。

■ 放蕩息子のたとえ

弟は自己中心な思いで、父の財産をもらって好きに生きようと、家から出ていきました。
その結果、苦勞し、食べることもできなくなり、父の元に帰ろうと決めました。
神様から心が離れて、自己中心な思いでいっぱいになっている時は、諫めて説得してもわかりませんし、聞けずに、拒否が起きます。

放蕩息子が帰ろうという心に替えられたのは、父が愛し続け、信じて待ち続けたからでしょう。私達の心に神様から離れてしまう心があつたとしたら、神様はどうでしょうか。神様は変わらずに待ち続けるこの父の姿のように、それでも私達を信じて愛し続けてくださっているのです。

このたとえから神様の心を知る私達は、頑なさを捨てて、聞き従う方がいいはずですが。聞き従わなかった代償は、この家の財産の半分です。もし聞くことができたなら、失わずに済んだのです。

■ もりちゃんの証

幕末から明治にかけキリシタン迫害の歴史があります。
山口県津和野市にある「乙女峠」。キリシタン弾圧事件で、津和野には 153 名のキリシタンが収容され、その収容されている場所で厳しい拷問を受けました。津和野に流刑されたキリシタンのうち 37 名が命を落としました。
その中に一人の少女がいました。岩永もりちゃんという 6 歳の女の子です。

迫害の中、役人は飢えに苦しむ子ども達にお菓子を見せ、「食べてそのかわりにキリストは嫌いだと言いなさい」と言いました。しかし、もりちゃんは、「お菓子をもらえば天国へは行けない。天国へ行けば、お菓子でも何でもあります」と答えて、永遠のしあわせを選びました。もりちゃんはその後命を落としました。

しかし、もりちゃんの信仰を守る姿は、一人の人間が持つ信念の力を示し、信仰と勇気の象徴として語り継がれています。

■ さいごに

私達が神様の愛を知ったのは継承してくれた方が先にいたからです。

拒否する心があるなら、私達は神様の愛を忘れているのです。

従えるわけがないようなことに聞き従おうとする時に、許せない人を愛そうとする時に、イエス様の犠牲を思い出します。私達を愛するが故に身代わりになられたのです。イエス様の愛は変わりません。

私達が聞き従うなら、問題は必ず解決に向かい、もう無理だと諦めていたところに奇跡が起こります。奇跡は人が作り変えられること。私達自身が作り変えられる奇跡を祈りましょう。

(要約者:藤原 友規子)

(2023年11月26日)